

障害のある同級生から学んだこと

関西創価中学校 1年

奥田 優莉

私の通っていた小学校には、育成学級がありました。その子達とは、となりどうしの教室で勉強していました。週に一回、障害を持つ人達について学ぶ授業もあり、とても身近な存在に感じていました。

同じクラスにも障害を持っている子がいました。Yちゃんは精神的に不安定な状態で、嫌なことがあると怒って暴れてしまったり、教室を出て行ってしまいます。初めて見た時はおどろきましたが、ちょっとわがままで怒りっぽいのかな？と思っていました。しかし毎時間のように不安定な状態が続いて授業が中断したり私のクラスだけ勉強が遅れたりしました。クラスメイト達は毎日続くこの状況にあきれてしまいYちゃんに対して無関心になっていきました。途中、クラスが離れ、私も勉強に集中できるから良かったと思っていました。

六年生で再び同じクラスになりました。体が大きく成長したぶん暴れると前より止めることが大変になりました。本やハサミなど危険な物を投げるようにもなっていました。

ある日の昼休み、Yちゃんと遊んでいると「今の担任の先生、嫌いじゃないけど苦手や。」と、私に本音を打ち明けてくれました。先生を嫌いではなく苦手という言葉を使ったYちゃん。自分なりに先生と上手くやろうと努力していることに気がつき頑張っているんだと思いました。

夏休みの直前、その日体育の授業が終わり教室の前に来てみると、クラスメイト達がろう下に立っていました。友達に何があったのか聞いてみると、Yちゃんが教室のとびらのカギを閉めてとじこもってしまい中に入れなくて困っていました。みんなでカギを開けて欲しいとお願いしたり、カギが開いているところを探したり、努力しましたが入ることはできませんでした。あわてて走ってきた教頭先生が無理矢理とびらを開けようとしていました。そんな事をしたらYちゃんももっとキレてしまうと、みんなで先生を引き止めていたその時、Yちゃんが窓ガラスを足でけり割ってしまいました。あまりの出来事に私達は呆然としていました。

二学期になり、担任が代わりYちゃんも少しずつ落ちついて、暴力をふるう事は少なくなりました。

私はいつも、彼女が暴れているのを見て、先生がどうにかしてくれるだろうと人任せにしていました。でも担任は、「自分の回りで起こった問題は自分で解決しなさい。」と言いました。この言葉を聞いてハッとしました。誰かに解決してもらうのを待つのではなく自分達で行動しようと、みんなの気持ちが一つになりました。それからクラスで話し合い四つの約束事を決めました。一、何があっても彼女を見捨てない 二、おたがいの個性を認

め合う 三、良いところを見つける 四、彼女の行動が間違っている時は、はっきりと伝えることです。

卒業式が近づいたころには、教室からいなくなる事、暴力も完全に無くなりました。みんなと一緒に授業やテストを受けて卒業制作にも積極的に取り組んでいました。彼女の笑顔が増えた事をみんなで喜んでいました。

小学校生活をふり返って、最初は勉強のじゃまをされて嫌だな。受験に失敗したらどうしようと自分の事ばかり考えていて彼女がいなければいいのにと感じていました。でも今はYちゃんが出てくれて良かったです。みんなにそれぞれの個性があって、障害のある子だけが特別ではないと分かったからです。他の子達と仲良くなるのと同じで、まずは相手の個性を認める事が大切だと教えてくれました。また、彼女が変わろうとしている事を信じて、あきらめずにみんなに関わり続けたから、クラスの友情を深める事もできました。これからもどんな人に対しても誠実に、一人一人を大切に友達の輪を広げていきます。